工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1－1
発行人（局長）
村岡　良祐
（工業化学科3年）

電気2年
出前授業

医大病院前に電飾設置
患者に癒しと励ましのあかり

電気科2年生は11月20日に旭川医科大学病院の玄関前ロータリーで出前授業「イルミネーションを点灯（つけ）てみよう」を行なった。

2年生は10班に分かれ、3本の棒を組んだ3脚を10個作り、中央の大きな木を飾り付けた道北電気工事業協同組合青年部の指導を受けながら、イルミネーションの飾りつけと制御用分電盤を設置した。

参加した林幸汰君は「これまで資格取得に向けて電気工事の実習を重ねてきたが、実際に電気を流す作業は今回が初めてで緊張した。しかし、指導してくださった企業の方が親切で話しやすかったため、安心してイルミネーション作りに取り組むことができた。点灯の瞬間は不安が大きかったが、全ての班のイルミネーションが無事に光り、胸の奥からじんわりと達成感が湧いてきた。自分たちの手を動かして作ったものが形になり、きちんと機能するという体験は何度も味わえるものではないと思う。また、このイルミネーションを毎年楽しみにしている患者が多いと聞き、自分たちの作業が誰かの励ましや喜びにつながっていることに、活動の意義を改めて感じた。将来は電気工事士の資格を生かした仕事に就きたいと考えており、この経験は必ず今後の就職活動にも生きるはずだ。今回の実習は技術の習得だけでなく、働くことへのイメージや自信にもつながる貴重な時間となった」と話した。

イルミネーションは12月26日まで点灯している。

電気科2年生の設置したイルミネーション（前）

作業する山口君（左）と高橋君（右）

5人制団体3位の柔道部の4人

柔道部

団体と個人で全道へ
「もっと積極的に攻める」

柔道部は11月7日、旭川市東光スポーツ公園武道館で行われた第48回全国高等学校柔道選手権旭川支部大会に部長の桑田悠叶君（土2）、笹川英慈君（土2）、湯浅直君（建1）、上村樹生君（化1）が出場し、5人制団体で3位、個人で桑田君が73kg級3位、笹川君と上村君が無差別級9位となり、全道出場を決めた。

桑田君は「自分から技をかけられるようになったことで、前回よりもやりたい柔道ができるようになった。しかし、気持ちや力で負けてしまった場面もあった。筋力トレーニングをし、一つ一つの技をさらに磨いていく」と話した。

笹川君は「厳しい戦いだったが、全道大会に進めて良かった。組手の練習に力を入れてきた。最初に自分のしたい技が出せなかったことが反省点。全道大会ではもっと積極的に攻める」と語った。

湯浅君は「支部大会では力不足だった。個人戦では組み合いのときに力負けし、自分の技が出せなかった。団体戦では前回戦った相手と長い戦いになったが、さばきの練習の成果を発揮することができて良かった。反省点は自分から攻めに行けなかったこと。これからは投げられることを恐れず、もっと積極的な試合をしたい。そのために筋力トレーニングと背負い投げのさばきを励みたい」と話した。

全道大会は12月17～18日に札幌市で行われる。

旭工ライフ

国を支える税金
旭川東税務署長賞を受賞
澤田渚君（機1）

国税庁主催の「税に関する高校生の作文コンテスト」で旭川東税務署長賞を受賞した。11月18日に署長の勝野昌博さんが来校し、校長室で表彰を受けた。

旭工では毎年公共の授業で夏休みの課題として1年生全員が税の作文を書いている。私の作文のタイトルは「税について」で、自分が調べた内容を整理してまとめて税金の使い道や社会での使い方を知ることができた。

いまだに賞を取ったことが信じられないが、とてもうれしかった。税金はたくさんの種類があって理解するのは難しかったが、税金のおかげで国が支えられていることを改めて知った。税金はとても大切なもので、国民はもっと知らないといけないと思った。これからも税金を学ぶ中で、一人ひとりが当事者として意識を変える大切さを学んだ。

趣味はバスケ

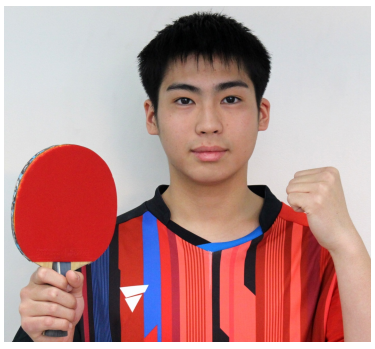
卓球部

高橋一希君が優勝
全道に向け課題を克服

卓球部は11月15～16日に鷹栖町総合体育館で行われた全旭川高校新人大会兼第53回北海道高校選抜大会旭川支部予選会に出場した。シングルスで高橋一希君（電2）が優勝し、ダブルスで高橋君と林幸汰君（電2）のペアが5位で全道大会出場を決めた。

高橋君は「今回は皆の応援と自分の攻める球が相手コートにしっかり入ったことが勝因だ。フォアが安定しないこととサーブの甘さが課題で、それらを克服するために『どう打てば安定するのか』『どうすれば打ちやすいのか』を自分なりに考えて試合に臨んだ。全道大会に向けて、どんな意識でサーブを出すのかを考えながら練習し、克服したい。攻めてミスしても良いが、雑に攻めたり弱気になったりするプレーはしないようにしたい」と語った。

全道大会は12月19～21日に苫小牧市で行われる。


優勝した高橋一希君（電2）

工具箱

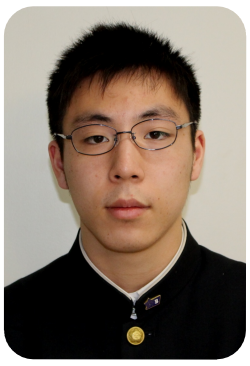
学校への登校日数が1ヶ月を切った。そこで今回は3年間の学校生活での思い出や印象に残っていることを書こうと思う▼一つ目は工高祭だ。私は3年間で3回工業化学科の科展示を担当した。最後の工高祭では科展示のリーダーを任された。科展示では誰がどの展示を担当するかがなかなか決まらず大変だった。同級生にも助けてもらいながら担当が決まった。スライムやアイスクリーム、ポップコーンなどを作った。本番では見に来たお客さんが作ったアイスクリームやポップコーンを食べて楽しんでくれていて良かった。特に、アイスクリームが人気だった。初めて出たクラスステージでは出し物が決まらずけんかも起こったが氣志團の「喧嘩上等」に決まった。初めはダンスを覚えられるか不安だったが、なんとか本番までに覚え、失敗せず踊り切れて良かった▼次に見学旅行だ。3泊4日で京都府・大阪府・奈良県の三か所に行った。2日目に京都、3日目に大阪でそれぞれ自主研修をした。見学旅行に行く前に同じ班の人とどこに行くかなど計画を立てていたが、決めていた通りには行かなかったり、けんかになったりしたが、最後には楽しいと思えたので良かった。さらに友達との仲が深まった▼もうすぐ私は旭工を卒業して社会人になる。社会に出たら今まで通りにはいかないことが多々ある。だが旭工で学んだことを生かして頑張って行く。（化3佐々木）

進学 公務員

早期に志望先を決める
過去問を何度も解くこと

進学は57人が合格、公務員は19人が内定している。（12月15日現在）。合格者に志望理由と試験対策、後輩へのアドバイスを聞いた。

体験授業が決めて
室蘭工業大学


枡田武君（建3）

進学しようと決めていたが進学先に悩んでいた。オープンキャンパスに参加し、大学の寮や学生が利用できるロボットアリーナなどの設備の良さと体験授業を受けて決めた。

試験は数学とプレゼンテーション、面接の三つ。数学は数学Ⅰの内容を思い出すのが大変だったが、数学科の滝沢英樹先生に教えてもらい、本番の試験では90点以上取れたので良かった。プレゼンテーションではパワーポイントの作成に時間がかかった。本番の発表では最初は声をうまく出せなかったり、トーンや速度を意識できなかったりした。発表の練習がもっと必要だった。面接では練習をしっかり行ない、自信を付けた。そのため本番では時間内に大学でやりたいことや熱意を伝えることができた。

大学ではまちづくりの研究をして、将来は「過疎化を救う建築士」になれるように頑張りたい。

後輩へのアドバイスは、過去の試験問題で分からないことは先生に聞いて、解決しておいた方が良い。部活動や資格取得にも力を入れておくと面接で話す内容が増える。

英会話の対策も
旭川工業高等専門学校

宮島佳汰君（電3）

再生可能エネルギーの開発に携わりたいと思い企業研究を進めてきたが、高卒で開発職を募集している企業はほとんどなかった。そんな中で、自分が興味を持つ分野の研究を行っていたのが旭川高専で、ここなら自分のやりたいことに最も近づけると志望した。

2年生の電力技術の授業で日本のエネルギー課題について学び、なぜエネルギー不足が起きているのか、そしてどのように解決されるのかを深く知りたいと思ったことも大きな理由だ。

将来は開発に携わり、現在の再生可能エネルギーをより効率的なものへ改良するとともに、新たな発電方法の創出にも挑戦したい。

試験勉強は3年生の4月から始めた。特に英語会話が難しく、口頭試問ではホワイトボードに示された問題を解く形式だったため、実際に英語科の遠藤祥悦先生に出題してもらい対策を行った。本番では練習していない問題が出て焦ったが、ヒントを頼りに解き切ることができた。しかし、対策が十分でなく解答に時間がかかった。

面接練習では「志望理由は明確だが、入学後に何をしたいのかがあいまい」と指摘された。本番では準備していた質問にしっかり答えられたが、一部あいまいな回答をしてしまい、そこが心残りだった。

後輩へのアドバイスとしては、試験勉強は早く始め、できるだけ多くの演習を積むべき。また、面接は多くの先生に相談し、様々な視点からアドバイスをもらうこと。

成績を上げよう
北海道情報専門学校

姉歯将大君（情3）

出前授業を受けて、この専門学校でプログラムやＩＣＴなどの知識を身に付けたいと思い、3年生の4月頃から目指した。

試験勉強は5月頃から始め、特に面接練習に力を入れた。練習は10回以上行ない、多くの先生方とすることで色々な質問をされて、自分の本当にやりたいことを見つけることができた。想定外の質問をされて、答えられないこともあった。本番では用意した回答が出なく、緊張もしていたが、落ち着いた状態で臨機応変に話せることができた。

合格したときはとてもうれしく、特待生としての重責もあったので、本当に良かった。

入学後はＩＣＴやプログラムについてのセキュリティを学び、ネットワークスペシャリストや応用情報技術者といった、難易度の高い資格を取りたい。

また、バスケットボールなどの運動系のサークルに参加して、多くの人と関わりたいと思っている。将来は高い技術を持ったエンジニアになり、社会に貢献したい。

後輩へのアドバイスは、成績を上げるように日々の努力を続け、面接練習もしっかり頑張ってほしい。

部活と勉強の両立
北見工業大学

居石彗君（機3）

寒冷地でも信頼して使うことができる技術を学び、北海道の課題を解決できるエンジニアを目指すため志望した。大学では寒冷地でエンジンがかかりずらいことについての対策を研究したい。

試験が数学Ⅰと物理基礎で、物理では習っていない範囲があったので勉強するのに苦労した。しっかりと対策したので筆記試験はうまくいった。面接練習は12回行なった。努力したことは部活動のバスケットボールと受験勉強の両立。

後輩へのアドバイスは、面接はアドミッションポリシーを意識して、早い時期から行なった方が良い。

SPIを勉強する
北見地区消防組合

鈴木玲央君（化3）

斜里町出身なので実家から近い北見市を選んだ。元々オホーツク地方で働きたいと思っており、中学生のときに家の近くで火事が起き、消防士の方々が駆けつけて火を消している姿を見たことがきっかけで志望した。

面接練習は6回程度。面接をしてくれた先生方の質問内容が全く違うので、色々な先生と練習すると良い。本番ではあまり緊張もせず、普段通りに行なうことができた。

就職後は一人でも多くの人を助けられるようにしたい。常に危険な仕事なので気を抜かず集中して取り組みたい。

後輩へのアドバイスは、公務員を目指す人はＳＰＩや模擬試験の問題集を今からでも遅くないので勉強したら良い。ＳＰＩ関連の基本的な知識を身に付けると良い。

面接練習は何回も
北海道開発局

高木琉良君（土3）

公務員になりたいと考えていたところ、親の知り合いの開発局の人に業務内容の話を聞き、自分も災害から人々を守ることのできる仕事に就きたいと思った。旭川市は川が多く、橋梁の工事に携わりたいと思っていたので開発局では河川業務に就きたい。

試験勉強は3年生の4月から週2回塾に通い1回で4～5時間勉強し、問題集や塾で配られた国家公務員の過去の試験問題を何回も解いた。学校では勉強しない判断推理と数的推理が大変だった。特に数的推理が苦手だったのでたくさん問題を解いてできるようにした。本番の試験は全部難しかったが、特に教養の範囲が広く大変だった。合格発表まで筆記が受かっているか自信がなく不安だったので合格できてうれしい。

面接練習は5回した。練習では言葉遣いや目線、話す内容が具体的ではないなどと指摘されることが多かった。本番の面接では練習で指摘されたところはでき、質問されたことにもスムーズに答えられたが、事前に練習していなかった質問には困ってしまい上手く答えられなかった。

後輩へのアドバイスは2年生の11～12月ぐらいから公務員の塾が開講しているので勉強は早くから取り組んだ方が良い。特に判断推理と数的推理は教養問題よりも範囲が狭く出題されるところが分かりやすいのでできるようにしてほしい。面接練習は何回もした方が良く、部活動や学校生活、自分の長所短所、性格などは聞かれるのでスラスラ話せるようにした方が良い。

高文連新聞技術講習会
レイアウトを学ぶ

新聞局は12月1日に旭川市民文化会館で行なわれた高文連上川支部新聞技術講習会に6人が参加した。

講習会では講師の札幌啓成高校新聞局顧問の秋田隆之先生から「レイアウトの基本」を教わった後、見本の新聞の悪いところを班で話し合って発表した。また、用意された新聞の素材である見出し、記事、写真を切り貼りして紙面を作った。最後に秋田先生から各校の新聞の良いところ、悪いところの指摘を受け、どうすればより良くなるかを教えてもらった。

旭川東高校の牧野壮志君（1年）は「新聞クリニックで旭東新聞の直すべきところを指摘されたので改善していきたい」と話した。